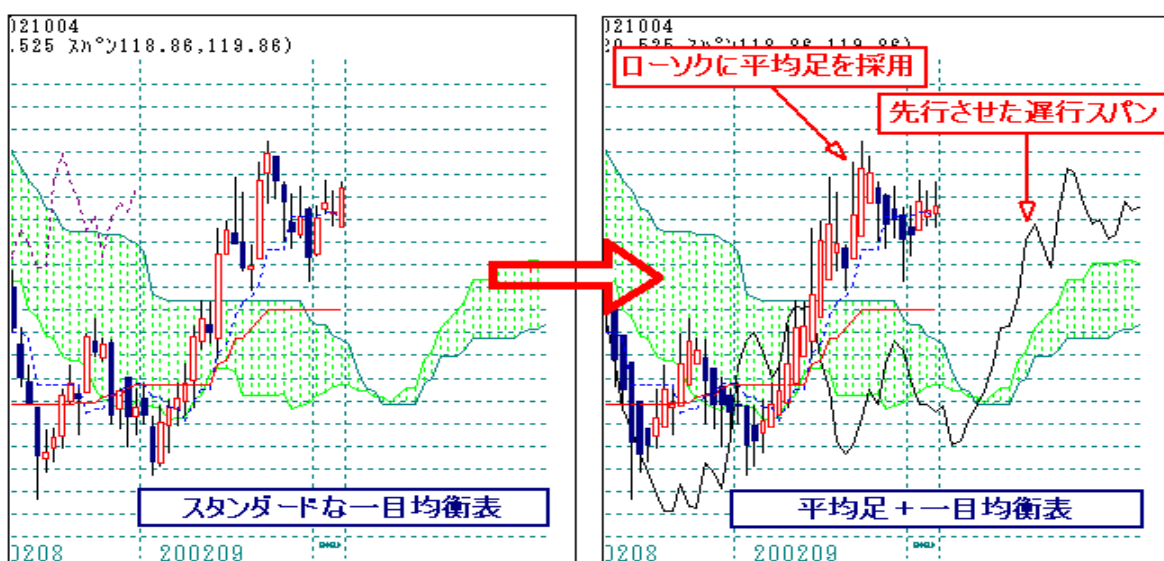


## 平均足 + 一目均衡表の見方

### 1 はじめに

「一目均衡表」は昭和初期に一目山人氏(ペンネーム)が考案したチャートです。ローソク足をベースに、計算によって得られる5つの線を重ねて表示することで、トレンド、サポートとレジスタンス、時間的要素をビジュアルに知ることが出来る分析手法といえるでしょう。

いっぽう「平均足」は生糸相場で巨大な利益を得た相場師によって使われていた修正ローソク足です。オリジナルのローソク足は型を読むのに慣れを要しますが、計算による修正を加えることでトレンドを明確に表現できるようになります。



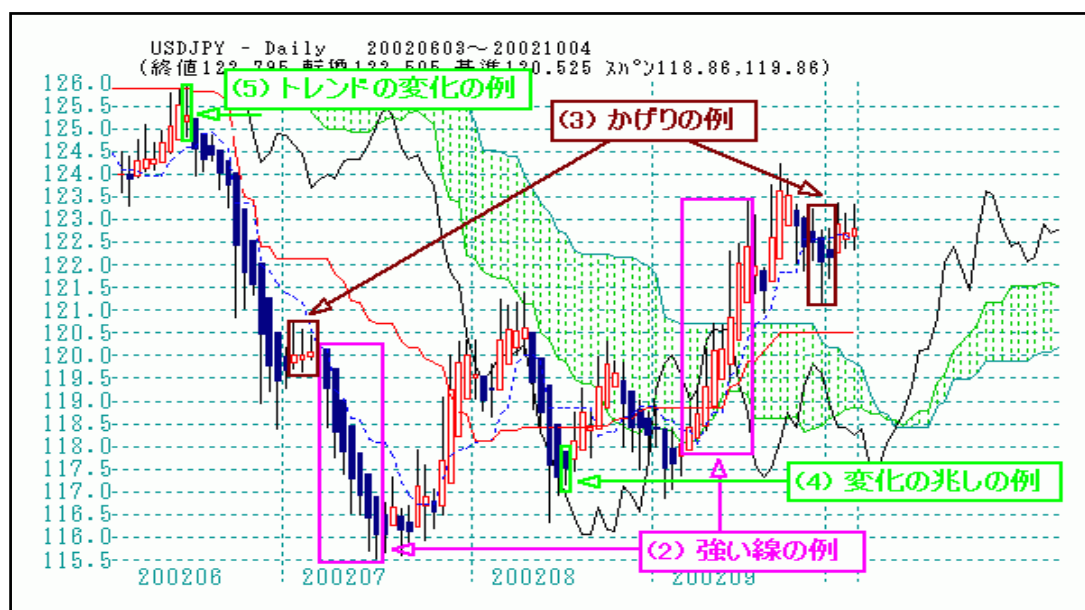
2つのチャートと比較すればおわかりのように、「平均足 + 一目均衡表」は一目均衡表のローソク足に平均足を採用し、両者の利点を融合させたオリジナルな分析手法です。さらに遅行スパンを先行させることで、一段と見やすいユニークなチャートに仕上がっています。

### 2 平均足の見方

平均足の見方は以下の5点に集約することができます。

- (ルール 1) **陽線(赤いローソク)**は”買い”、**陰線(青いローソク)**は”売り”。 [基本ルール]
- (ルール 2) **陽線 + 上ヒゲ** は”強い買い”、**陰線 + 下ヒゲ** は”強い売り”。 例 (2)
- (ルール 3) **陽線 + 下ヒゲ** は”買いにかげり”、**陰線 + 上ヒゲ** は”売りにかげり”。 例 (3)
- (ルール 4) 前日の実体(ローソクの胴体部)より短い実体は”変化の兆し”。 例 (4)
- (ルール 5) 非常に短い実体(特に胴体部の無い同時線)は”トレンドの変化”。 例 (5)

ドル円のチャートを使って具体例を示してみましょう。



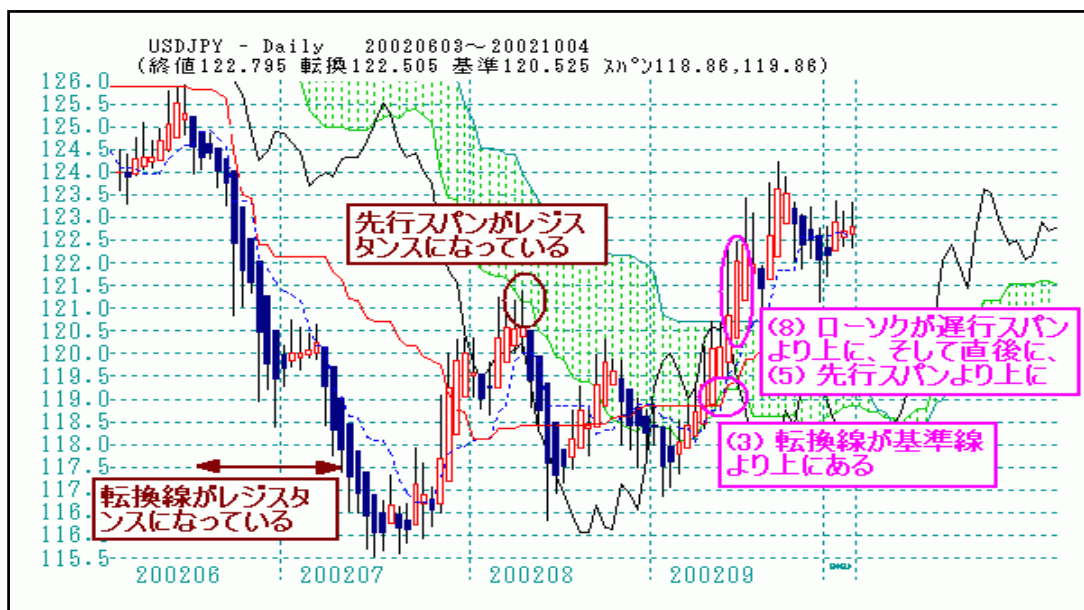
とてもシンプルなルールなのですぐに覚えられるのではないのでしょうか。初めは[基本ルール]だけでも十分に役立つはず。また、平均足は日足だけでなく週足、月足でも有効です。長期のチャートから短期のチャートへと見ていくことで、現在のトレンドをより明確に知ることが可能です。

### 3 一目均衡表の簡単な見方

一目均衡表の本来の要素は時間にあるのですが、これは読むには熟練を要します。ここでは価格面について着目してみましょう。

- (1) 転換線を短期のサポート、レジスタンスとして使う。      チャート例
  - (2) 基準線をトレンドの要として傾きを参考にする。
  - (3) 転換線が基準線より上にある時は買い、逆ならば売り。 \*
  - (4) 先行スパンを長期のサポート、レジスタンスとして使う。      チャート例
  - (5) ローソクが先行スパンより上にある時は買い、逆ならば売り。 \*
  - (6) ローソクが先行スパンから大きく乖離した時は行き過ぎ。
  - (7) 先行スパンの捻れ(上下転換)はトレンドの変化。
  - (8) ローソクが先行させた遅行スパンより上にあれば買い、逆ならば売り。 \*
- \* (3), (5), (8) の3つが同方向の時は強いトレンド。      チャート例

ここでも上記チャートを使っていくつか具体例を示してみましょう。



#### 4 おわりに

トレーディングで勝つためにトレンドを知ることは重要です。「平均足 + 一目均衡表」を使ったトレンド分析により、勝率が上がることは間違いのないと思います。なお、時間の要素については独自のサイクル分析(アストロ・サイクル)を用いた予測を行っております。アストロ・サイクルについては、次のURLを参照してください。 <http://homepage1.nifty.com/yy/Astro/>

最後に、一目均衡表と平均足について書かれた文献でおすすめのものを一点ずつ紹介します。平均足については詳細に述べられた文献はありません。下記の本もテクニカル分析全般に関する内容で、その内2ページで説明されているのみです。

一目均衡表: 「一目均衡表の見方」 佐々木 英信 著 (投資レーダー) 3669 円  
 平均足: 「先物罫線・相場奥の細道」 鍋木 繁 著 (パンローリング) 1260 円

## 補足1: 平均足

平均足とは修正ローソク足で、日本の商品先物相場ではごく普通に利用されている分析方法です。通常のローソク足は型を読むのに慣れを要しますが、このローソク足に計算による修正を加えることでトレンドを明確に表現できるようになります。まず、2つのチャートをご覧ください。

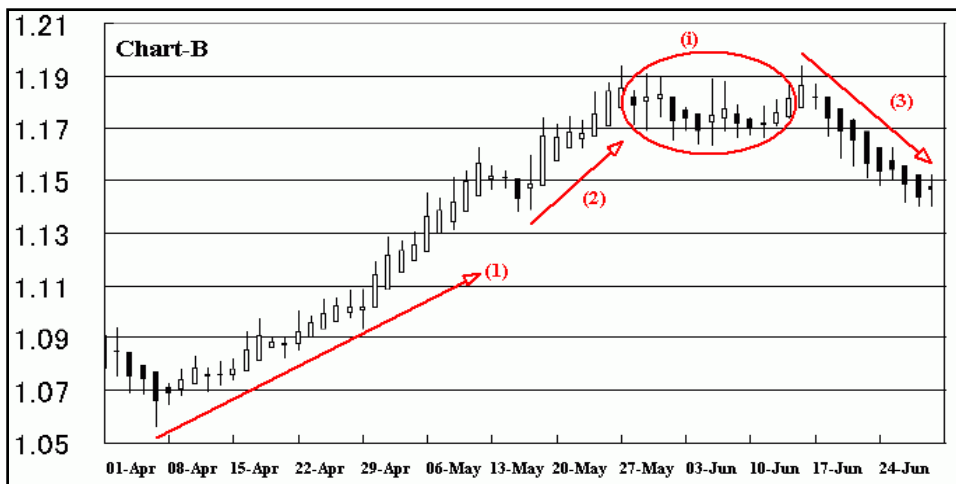


Chart-Aは通常のローソク足による、Chart-Bは平均足によるユーロドルの2003年4月～6月の動きを表わしています。最初に感じることはChart-AにくらべてChart-Bはローソクの足型がシンプルになっているということではないでしょうか。

いくつか例をあげてみましょう。最初の例は4月上旬から5月上旬にかけてのユーロの上げ相場です。それぞれのチャートで(1)の期間をくらべてください。Chart-Aではこの間、陽線陰線が複雑に繰り返されており、ローソク足のルールを知らないと細かな読みは不可能です。いっぽう、Chart-Bではほぼ一貫した陽線となっておりこの間のユーロが上げ相場であることをシンプルに示しています。特に4月下旬以降、平均足ではまったく陰線が出現しておらず、明確に上げ相場であることをビジュアルに知ることができます。

同様に、5月中旬から下旬にかけての上げ相場(2)の期間、6月中旬から下旬にかけての下げ相場(3)の期間を見くらべてみると通常のローソク足にくらべてトレンドが明確に現れていることがわかるでしょう。また、(i)の期間のように保ち合いを続けている間は、平均足の場合上下に影がある足型になることが多いため、トレンドがないことも容易に知ることができるのです。

以下に、平均足を読む場合のポイントを整理しておきますが、ルールはわずか5つですから、誰にでも短い期間に覚えることが出来るはずですよ。

- (ルール 1) 陽線は”買い”、陰線は”売り”。 [基本ルール]
- (ルール 2) 陽線 + 上ヒゲ は”強い買い”、陰線 + 下ヒゲ は”強い売り”。
- (ルール 3) 陽線 + 下ヒゲ は”買いにかげり”、陰線 + 上ヒゲ は”売りにかげり”。
- (ルール 4) 前日の実体(ローソクの胴体部)より短い実体は”変化の兆し”。
- (ルール 5) 非常に短い実体(特に胴体部の無い同時線)は”トレンドの変化”。

最後に、ワークシートを使って平均足を計算する場合の式を示しておきましょう。

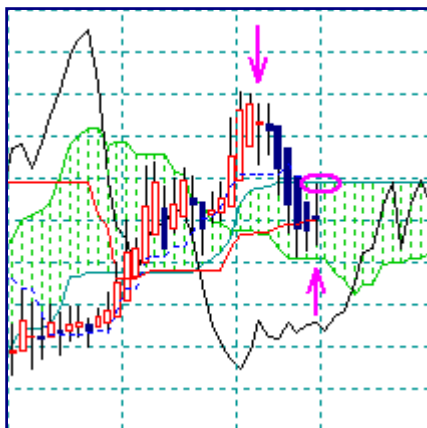
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		O	H	L	C	MO	MC		
2	02-Jan-97	1.2684	1.2717	1.2628	1.2671	1.2675	1.2675		
3	:	:	:	:	:	:	:		
4	01-Apr-03	1.0919	1.0925	1.0864	1.0920	1.0781	1.0907		
5	02-Apr-03	1.0938	1.0943	1.0750	1.0769	1.0844	1.0850		
6	03-Apr-03	1.0765	1.0792	1.0685	1.0759	1.0847	1.0750		
7	04-Apr-03	1.0765	1.0769	1.0680	1.0735	1.0799	1.0737		
8	07-Apr-03	1.0675	1.0703	1.0559	1.0695	1.0768	1.0658		
9	08-Apr-03	1.0680	1.0724	1.0642	1.0708	1.0713	1.0689		
10	09-Apr-03	1.0722	1.0784	1.0675	1.0773	1.0701	1.0739		
11	10-Apr-03	1.0771	1.0830	1.0760	1.0789	1.0720	1.0788		
12	11-Apr-03	1.0786	1.0787	1.0692	1.0755	↑	↑		
13	14-Apr-03	1.0727	1.0811	1.0717	1.0772	↑	ModifiedClose=(O+H+L+C)/4		
14	15-Apr-03	1.0776	1.0821	1.0737	1.0797	↑	∴		
15	16-Apr-03	1.0793	1.0920	1.0784	1.0915	↑	G11=AVERAGE(B11:E11)		
16						↑			
17						ModifiedOpen=(prev.MO+prev.MC)/2			
18						∴			
19						F11=(F10+G10)/2			

ワークシートのサンプルを見ていただければおわかりのように、平均足の場合、高値と安値はローソク足同様にその日の高値と安値を使います。ローソク足と異なるのは寄付と終値です。修正終値はその日の4本値の平均値を使います。G11のセルの例のように単純に平均値を使っていますので簡単です。

多少わかりにくいのが修正寄付で、これはF11のセルの例のように前日の修正寄付と修正終値の平均値を使います。修正寄付の場合の問題点はDay-1です。Day-1の場合のみ、前日がありませんから修正寄付にも修正終値と同じ計算値を使うこととなります。期間によって微妙に数値に違いが出てくるものの計算を繰り返していく間にチャートの形自体には違いが無くなってきますから、この点についてはあまり心配はいらないでしょう。これら修正寄付と修正終値の計算方法から平均足という名前がついているわけです。

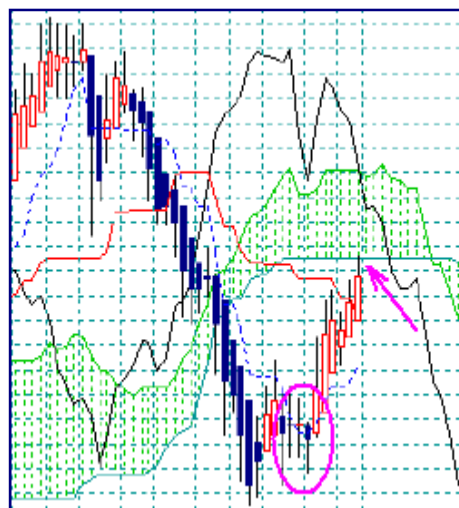
## 補足2: 長期から短期へと

「長期のチャートから短期のチャートへと見ていくことで、現在のトレンドをより明確に知ることが可能です。」と書きましたが、具体的にどのようなことなのか例をあげてみましょう。

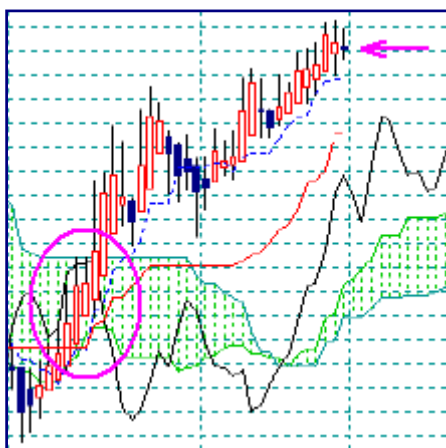


まず、左のチャートをご覧ください。これはドル円の月足チャートから2000年1月から2002年9月までを切り取ったものです。このチャートから判断できる主なポイントは、(1) 2002年3月に平均足に変化の兆しが現れて円高トレンドに転換、2002年9月にその円高トレンドに再び変化の兆しが現れていること、(2) 2002年7月以降、先行スパンの上限である124.45がレジスタンスとなっており、この水準を抜けるかどうかはひとつの節目であること、です。

次に、右の週足チャートをご覧ください。このチャートは2002年1月から10月3週までの部分ですが、このチャートからは、(1) 8月3週以降、迷い気味の足が続いた後、9月2週に平均足が買い転換していること、(2) 最後の足でトライしている先行スパンの水準125.50がレジスタンスとなっていること、といったことがわかります。



月足と併せて考えると、9月以降の円安トレンドは月足のレジスタンス124.45を抜けたことで、その流れを強めているものの、週足のレジスタンス125.50を抜け切れずにいる、つまり現状は124.45~125.50をコアとしたレンジということができるでしょう。



そして、最後に日足チャートです。日足はトレーディングにおいて最も重要なチャートといえます。左のチャートは9月2日~10月22日の部分です。このチャートからは、(1) 週足が買い転換した時期と時を同じくして次々と三役買いのシグナルが出ていること、(2) その後、平均足は幾度か売買転換し、直近では21日に買いが弱まり、22日に売りに転換する足が出ていること、がわかります。つまり、円安の流れの中で直近のトレンドに調整が入る可能性を示しています。

以上のように、月足 週足 日足と森(長期のチャート)から木(短期のチャート)を見ていくことで、トレンドをより明確に知ることが可能となるのです。

## 補足3: FAQ

よく聞かれる質問を FAQ としてまとめました。

### 1. 平均足を採用する理由は？ また、参考文献はありますか？

マニュアルと平均足補足をご覧ください。

### 2. なぜ遅行スパンが先行しているのですか？

遅行スパンのみ遅行させ、遅行スパンと過去の日足を比べるのは見にくいということが最大の理由です。遅行スパンを先行させることで同じ効果が得られ、先行させた遅行スパンと当日の日足とを比較でき、上下関係がわかりやすくなります。(先行させた遅行スパンより当日の日足が上ならば強い地合いといったように、あくまでも当日の日足を主として考えられます。)

もうひとつの理由として、先行させた遅行スパンの山や谷の前後の位置で相場が転換することが多く、相場の変化日の参考になることです。これも遅行スパンを先行させないとわかりにくくなります。

### 3. ときどき解説に出てくる日柄、時間帯の根拠はなんですか？

金融占星術をベースに独自に編み出した日柄分析の手法(アストロ)です。詳細は「アストロカレンダー」として<http://homepage1.nifty.com/yy/Astro/>にて公開しておりますので参照してください。

### 4. 外為市場の場合 24 時間マーケットですが、寄り付きと終値は何時にしていますか？

寄り付きは東京午前 9 時、終値は NY 午後 5 時にしています。NY 午後 5 時から東京午前 9 時の間(シドニー市場)の取引レンジは無視しています。理由は以下の通りです。

外為市場が今ほど自由化されていなかった頃、日銀は東京市場の公式オープン等を公表していましたが、その寄り付きが東京午前 9 時であったこと、過去のヒストリカルレートを長期に渡り、この時間帯で記録していたためです。

シドニー市場のレンジを無視している理由は、NY 午後 5 時以降の取引が少なくなること、またこの時間帯をあえてギャップとすることでチャートの使いやすくなるというメリットもあります。また、NY のクローズ後に戦略を立てて実際に東京寄り付き時に注文を出すまでゆっくりと考える時間があるというのも大きなメリットです。

さらに、東京午前 9 時は GMT0 時にあたり、外為市場に限らず一日のスタートをどの時点にとる

かという際、基準としやすいことがあります。アストロでは時間、事象(価格)、場所のバランスを重視しますので、時間と場所のバランスが取れる GMT0 時(経度が東経、西経 0 度)を採用することは意味があります。

## 5. 日足、週足による各数値の横にある + や - の記号の意味は？

これは均衡表の三役(転換線と基準線の位置、日足と先行スパンの位置、日足と遅行スパンの位置)から判断されるトレンドの強さを分類したものです。++(強い上昇相場) +(上昇相場) ±(中立) -(下降相場) --(強い下降相場)の5段階があります。

## 6. その他、問い合わせ先

その他、質問がありましたら、アセンダント(山中)までお問い合わせください。

Web: <http://ascendant.jp>

メール: [info@ascendant.jp](mailto:info@ascendant.jp)

以上